

令和5年度 学校評価自己評価表

- 1 学校教育目標 自ら学び 自ら考え 協働できる 心豊かな子供の育成
- 2 経営理念 ミッション：「地域に愛され、信頼される」学校 ビジョン：「子供の成長の姿で教育の成果を見せる」学校
- 3 経営目標・評価項目・評価・達成状況 【評価基準 達成度＝達成値÷目標値×100 A（達成度100%以上） B（達成度100～80%） C（達成度80～60%） D（達成度60%未満）】

	評価計画					自己評価						担当
	中期経営目標	短期経営目標	目標達成のための手だて	評価指標	目標数値	7月	1月	達成度	評価	短期経営目標の達成状況	改善方策	
						達成値	達成値					
確かな学力	意欲を持ち主体性を発揮する子供の育成	1. 基礎的・基本的な学力の定着を図る	○ぐんぐんタイムでは、漢字や言葉・計算の復習を行い、学力の定着を図る。 ○デジタル教材やICTを効果的に用いた分かりやすい授業づくりや対話で深める授業づくり（問い返しの発問を児童同士で行う）に取り組む。	①国語・算数・理科の単元末テストにおける学級平均到達度の割合 ②全国学力学習状況調査の到達度で、全国平均を上回る児童の割合	①低90% 中高80% ②60%							高木・石光・古本
		2. 生活科・総合的な学習の時間を通して、資質・能力の向上を図る	○児童の願いや思いを活かした課題を設定し、児童が主体的に学びたくなるような単元構成をする。	児童アンケートにおける肯定的評価の割合（アンケート項目） ①「知りたい」「今何をすべきか」と考えて、課題を発見することができた。 ②課題を解決するために、友達と協力したり、使えることを選択したりして、見通しをもって解決した。 ③学んだ事を次の学習へ活かすことができた。 ④自分や友達、郷土の良さに気付くことができた。	80%							坂本・辻
豊かな心と健やかな体	豊かな関わり合いができ、たくましく生きる子供の育成	3. 生徒指導・特別活動を中心に児童の主体的な行動を充実させ、自己肯定感を育てる	○特別活動を通して、自分・学級・学校・地域をよりよくするために、自ら取り組める環境を整えることで、主体的・自治的な行動を促す。 ・児童会執行委員会を中心に挨拶運動を行い、毎月「挨拶名人」の表彰を行う。 ・運動会等の行事に向け一人一人に目標設定させるとともに、目標の振り返りを行う。 ・学級活動で「友達のいいところ見つけ」を継続的に行う。	以下の質問に対して肯定的に答える児童の割合を平均80%以上にする。 ・レベル5（自分から相手に聞こえる声で相手の目を見て立ち止まって）の挨拶をすることができている。 ・自分の決めた目標に向かって努力できた。 ・周りの人のために自分で考えて行動することができた。 ・友達が頑張っていたり困っていたりした時に、協力することができた。	80%							高石・川原・北村
		4. 努力が結果となる体験を通して、児童の体力向上の意欲を高める	○体育朝会などで児童の基礎体力や運動への意欲の向上を図る取り組みを行う。 ○運動の楽しさを味わうことができるよう、体育の主運動につながる準備運動を工夫したり、運動量を確保したりする。 ○新体力テスト、持久走大会時等に、自分で目標(数値)を立てさせ、運動への意欲を持たせる。 ○生活がんびり週間を通じて、健康的で規則的な生活習慣の定着を図り、基礎体力向上の基盤をつくる。	児童アンケートにおける肯定的評価の割合 ・自分から進んで体を動かすことができる。 ・自分のめあてにむかって練習できる。	80%							劔持・奥谷
信頼される学校	保護者・地域に信頼される学校づくり	5. 一人一人の児童が安心して伸び伸びと力が発揮でき、保護者が行かせたいと思える学校を創る	○学校便りや学級通信を通して、学校の取組や児童の様子を積極的に発信する。 ○日頃から保護者と積極的に連携を図る。	学期末保護者アンケートの「お子さんを三和小学校に通わせて良かったと思う」の項目における肯定的評価の割合	90%							相原・高木
		6. コミュニティースクールの推進を通して、地域への関心や貢献の意欲を高める	○地域人材を活用して、地域のよさに触れさせる。 ・米作り ・野菜作り ・総合的な学習の時間における地域学習	「地域の良いところ・自慢できること」を2つ以上かける児童の割合（1～4年） 「地域のために役立つことをしたいと思う」の項目における肯定的評価の割合（5・6年）	85%							相原・坂本